

深い学びの実現のために —カリキュラム・マネジメントに焦点を当てて—

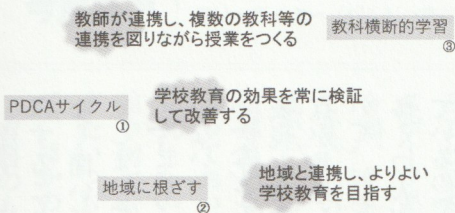
今宮信吾 | 大阪大谷大学 教育学部教授

1. チャンス到来

新学習指導要領の実施と中央教育審議会（以下中教審）の答申により、カリキュラム・マネジメント（以下カリマネ）による教育課程の編成が求められる。学校現場に関わらせていただいていると感じることは、それに伴う負担感である。しかし、私はチャンスを与えられたと思って教師がより主体的に取り組むことが大切ではないかと思う。「主体的・対話的で深い学び」（いわゆるアクティブ・ラーニング）をダイナミックに構想するためには、現状を変えていく必要がある。そこにチャンスがある。

【図】「カリキュラム・マネジメントについて」
文部科学省 2020年1月28日（①～③は筆者補足）

カリキュラム・マネジメントの3つの側面



多くの学校では、教科横断的な学びがカリマネのポイントと思われている節があるが、文部科学省としては3つの側面を挙げている。

① 授業づくりのポイント
② 学校教育全体の検証
③ 地域との連携である。「ここでしか学べない教育」「地域と共にある学校」こそがカリマネのポイントである。

2. 地域との連携

コミュニティ・スクールとして学校改革を実施しようとしている地域もある。平成27年12月に取りまとめられた中教審答申「新しい時代の教育と地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方」と今後の推進方策について」を踏まえ、平成29年4月1日より施行されたものであるが、これらの要素を新たに追加された中教審答申でも引き継がれている。そこでは以下のような文言が書かれている。

ここに書かれていることはいわゆる「チーム学校」としての在り方でもある。

※1 (6) 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する

・少子高齢化や人口減少等で社会構造が変化する中、学校教育の持続可能性を確保しつつ魅力ある学校教育の実現に向け、必要な制度改正や運用改善を実施

・魅力的で質の高い学校教育を地方においても実現するため、高齢者を含む多様な地域の人材が学校教育に関わるとともに、学校の配置や施設の維持管理、校間連携の在り方を検討

3. 教師の主体性

子どもたちに主体性を求める以上、教師にも個性や適正を求めるのは当然のことである。中教審教員養成部会での会議資料には理想の教師像について書かれている。その中でも特に注目したいことは、次の三点である。

※2 「実現すべき教師の姿」

・環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている

・教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができる。

・新たな教師の学び（主体的な姿勢、継続的・個別最適・協働的な学び）

教員不足が伝えられ、学校現場も苦慮している。教師の主体性を保証するために、教師一人ひとりの主体性が求められる。カリマネを進めるのは、その作業を通して、学校集団としての動きを明確にすることにでもある。

4. 新しい学校像の模索

義務教育学校や中等教育学校など学校間の接続を意識した学校が創設されている。その上で教師の在り方も中教審では議論されている。学校間接続の連携の在り方については、次号で「STEAM教育の在り方」として述べる。今こそ学校が変わるチャンスだという意識は持つておきたい。

※1「令和の日本型学校教育の構築を目指して」中央教育審議会 2021年1月26日（下線は筆者による）

※2「令和の日本型学校教育を担う教師の在り方経過報告」中央教育審議会（令和の日本型学校教育）を担う教師の在り方 特別部会（第7回）・基本問題小委員会（第7回）・初等中等教育分科会教員養成部会（第130回）合同会議資料 2022年6月27日

今宮信吾 ●1964年兵庫県生まれ。国公私立小学校の教諭を経て、現職。国語教育、教育方法、教師教育などを専門領域とし、未来の教師を育てるために、各地で指導助言講演を行っている。